

(基本目標3) 多様で豊かな自然の恵みを次世代へつなげるまち

1. 生物多様性の保全・向上

1-1 希少動植物の保護

(ア) コシガヤホシクサ野生復帰事業

コシガヤホシクサは昭和13年に旧越ヶ谷町の元荒川付近で発見され、翌年新種のホシクサとして発表されました。このとき、発見地にちなんでコシガヤホシクサと命名されましたが、その後越谷市周辺では見られなくなりました。昭和50年には、茨城県下妻市の砂沼という農業用のため池で再発見されましたが、ため池の環境の変化により平成6年に絶滅してしまいました。しかし、残されていた種子から、国立科学博物館筑波実験植物園などの関係機関により、現在は砂沼での野生復帰の取り組みが進められています。

市では、「越谷」の名を持つ貴重な植物であるコシガヤホシクサを越谷で野生復帰させる取り組みを進めています。平成23年から、国立科学博物館筑波実験植物園から種子の提供や技術指導を受け、農業技術センターにおいて種子増殖のための栽培を行っています。また、専門家や関係機関との検討・協議を進め、かつてコシガヤホシクサが発見されたと考えられる葛西用水路で播種実験を行い、野生復帰に必要な生育条件を調査しています。

野生復帰事業の経過

年度	概要	栽培の概要			播種実験の概要	
		播種数	回収種子数	特別展示	播種数	試験区
H23	栽培の開始	5千粒	45万粒	1ヶ所		
H24	野生復帰検討会議の設置	6万粒	136万粒	1ヶ所		
H25	野生復帰候補地環境調査 野生復帰技術開発計画策定	3万粒	65.9万粒	7ヶ所		
H26	葛西用水での播種実験開始	3万粒	140万粒	9ヶ所	21万粒	4ヶ所・31㎡
H27	中学校との協力事業開始(中央中・東中)	3万粒	184万粒	9ヶ所	120万粒	12ヶ所・64㎡
H28	葛西用水に見本園を設置し、開花に至る	3.3万粒	144.3万粒	7ヶ所	174万粒	5ヶ所・47.7㎡
H29	平和橋付近に見本園を増設、開花に至る	1万粒	78.9万粒	7ヶ所	137万粒	1ヶ所・8.8㎡
H30	試験区にて初めて開花に至る	1万粒	5.3万粒	7ヶ所	72.9万粒	1ヶ所・12㎡
R元	試験区の環境条件を変更、開花に至る	1万粒	49万粒	5ヶ所	21.1万粒	1ヶ所・36.7㎡
R2	試験区の環境条件を変更、開花に至る	1万粒	148万粒	5ヶ所	73万粒	1ヶ所・36㎡

※種子の数は概数



農業技術センター内で栽培されているコシガヤホシクサ



葛西用水路での播種実験

(イ) シラコバト保護事業

シラコバトは、昭和 31 年に「越ヶ谷のシラコバト」として国の天然記念物に、昭和 40 年に「県民の鳥」に、昭和 63 年には「市の鳥」に指定され、多くの市民に親しまれてきました。しかしながら、市街化によるねぐら・営巣地となる屋敷林の減少、主要な採餌場所となる耕作地や畜舎の減少、畜舎への侵入遮断などによりその生息数が激減しています。

市では、埼玉県に協力し、シラコバトの生態に詳しい専門家、シラコバトを飼育している動物園、関係行政機関等とシラコバト保護対策検討会議に参加するとともに、平成 26 年 3 月に策定された「埼玉県シラコバト保護計画」に基づき、保護事業を実施しています。キャンベルタウン野鳥の森では、平成 20 年よりシラコバトの保護増殖を行っており、平成 26 年 10 月に市内で初めて飼育増殖に成功しています。また、平成 27 年度には埼玉県の補助金を活用し、シラコバト保護増殖施設（木造平屋建て 26.44 m²）を整備しています。令和 2 年度末時点での飼育数は 26 羽となっています。



野鳥の森で初めて孵化したヒナ



シラコバト保護増殖施設

(ウ) キタミソウ保全事業

キタミソウは、北海道の北見地方で発見され、その名がつけられたと言われています。越谷市内では、昭和 25 年に発見され、その後絶滅したとされていましたが、昭和 53 年にト沢氏によって、市内の葛西用水路で再発見されました。一年草で種子により繁殖し、花は非常に小さく 1~2mm 程度の白色、葉はスプーン型の長楕円形で柄を含めて 2cm 程度です。越谷では、用水の水が落ちた後の湿った川底で生育し 10~12 月と 3~4 月に花が見られます。市内では、葛西用水と古利根川に生育していますが、中でも、越谷市役所前の葛西用水路瓦曾根溜井に多く見られます。



キタミソウ

キタミソウの自生地は、行田市、春日部市、さいたま市、草加市、三郷市等でも確認されていますが、その中でも、葛西用水路瓦曾根溜井は、最大の自生地になっています。埼玉県レッドリストでは、野生での絶滅の危険性が高い、絶滅危惧 I B 類に分類されています。

平成 12 年度には「埼玉県希少野生動植物の種の保護に関する条例」に基づく「県内希少野生動植物」に第 1 次指定され、捕獲や採取する場合はあらかじめ県への届出が必要となっています。また、葛西用水路瓦曾根溜井では毎年、市民団体により「キタミソウ観察会&クリーン作戦」が行われています。

(エ) フジバカマ保全事業

フジバカマは、秋の七草の1つに数えられ、河川敷などの明るく湿った草地に生育する多年草です。近年、湿地の埋め立てや河川敷の開発などで生育地が激減し、埼玉県レッドリストでは、準絶滅危惧種に指定されています。市内では元荒川河川敷の一部に自生地がありますが、その他に、自生地付近の公園の保護ゾーンにおける保全作業の実施、市内の小学校での保全事業等が行なわれています。



フジバカマ

1-2 鳥獣保護

「鳥獣の保護及び狩猟の適正化に関する法律」に基づき、越谷市内では、宮内庁埼玉鴨場周辺 145ha、大吉調節池周辺 10.3ha が「鳥獣保護区」に指定され、捕獲が禁止されています。その他の地区でも、法律に基づき狩猟鳥獣の種類と、狩猟期間及び捕獲数量の制限などが定められています。また越谷市全域は、銃猟禁止区域に指定されています。

(ア) 傷病野鳥保護治療・傷病野鳥里親事業

傷ついたり病気になったりして衰弱し、保護が必要な野鳥に適切な治療を施し、山野で生息できる状態に回復するまで保護飼養し、自然に復帰させる事業を平成3年度より市内の獣医師と市民等の協力により実施しています。里親登録者数は、令和2年度末で個人6名です。

傷病野鳥の保護数（令和2年度）

スズメ	1	アオサギ	1
ムクドリ	2	ウスラシギ	1
カモ	1	ツグミ	1
ツバメ	2		

保護実績（年度別）

年度	保護数	治療数	放鳥数	死亡数	里親依頼件数
H3~H10	453	449	227	216	52
H11~H20	800	680	356	367	87
H21~H25	210	176	87	111	19
H26	33	18	11	9	4
H27	30	17	20	8	0
H28	22	14	9	11	4
H29	35	31	16	14	5
H30	24	22	14	10	2
R1	12	8	8	3	0
R2	9	4	7	2	0
合計	1,628	1,419	755	751	173

(イ) 有害鳥獣対策

埼玉県内では、野生化したアライグマやハクビシンによる、農作物への被害や、人家に住み着く等の生活被害が急増しています。また、カラスによる人間への攻撃被害も多く寄せられています。市ではこのような被害などにより捕獲の必要があると認められた場合、申請に対し捕獲の許可をしています。また、市では平成21年度より埼玉県アライグマ防除実施計画に参加しております。捕獲数は年々増加しており、令和2年度にはアライグマ77頭を捕獲しています。

捕獲鳥獣数（過去5年間）

年度	捕獲件数					
	カラス（卵）	ドバト（卵）	スズメ	キジバト	アライグマ	ハクビシン
H28	1 (0)	0 (0)	0	2	12	21
H29	0 (2)	69 (5)	4	0	21	19
H30	0 (0)	24 (0)	0	0	31	12
R1	5 (12)	7 (0)	0	0	20	28
R2	1 (0)	79 (3)	0	0	77	40

(ウ)特定外来生物

特定外来生物とは、生態系、人の生命・身体、農林水産業に被害を及ぼすおそれがあるため、「特定外来生物による生態系等に係る被害の防止に関する法律（外来生物法）」により指定された外来生物のことで、飼養、栽培等が規制されております。越谷市内では下記の特定外来生物の目撃情報が寄せられております。

越谷市内で目撃情報のあった特定外来生物

植物	オオキンケイギク	アレチウリ	オオフサモ	ミズヒマワリ	
哺乳類	アライグマ	ヌートリアまたはマスカラット（未確定）			
魚類	カダヤシ	オオクチバス	チャネルキャットフィッシュ (アメリカナマス)	ブルーギル	アリゲーターガー
昆虫類	クビアカツヤカミキリ	アカボシゴマダラ			
両生類	ウシガエル				
爬虫類	カミツキガメ				
鳥類	ガビチョウ				

1-3 いきもの調査

越谷市では、市内のいきものの生息状況から見た越谷の自然環境の現状を把握することを目的に、市民調査員の協力により、平成9年度から平成24年度まで5年ごとに4回の「越谷市ふるさといきもの調査」を実施しました。

平成29年度からの調査では、市内環境や調査に係る状況が変化したことから、調査方法や指標生物などの見直しを行いました。従来のメッシュ法から、環境省の「いきものログ」を活用した方法を用いるほか、指標生物30種を指定、「越谷市いきもの調査2017-2020」として、春期・夏期・秋期・冬期の調査期間を定め、4年に渡って実施しました。

○一般調査

市内在住・在学・在勤または市内で活動している方を対象に調査員を募集し、期間内での調査を行いました。

（令和2年度の実施内容）

調査期間：令和2年4月1日～6月30日（春期）

参加者：104名

報告数：1,355件

○一斉調査

令和2年4月25日に行う予定でしたが、新型コロナウイルス感染症予防の観点から中止となりました。

いきもの調査 2017-2020 報告件数

番号	分類	指標生物名	H29年度報告件数 夏期(7~9月)	H30年度報告件数 秋期(10~12月)	R元年度報告件数 冬期(1月~3月)	R2年度報告件数 冬期(4月~6月)
1	樹木(ヤナギ類)	ヤナギ類		138		
2	樹木(カバノキ科)	ハンノキ		43	92	
3	草本(イネ科)	ヨシ	275	141	70	38
4	草本(タデ科)	ミゾソバ	13	42		
5	草本(スマレ科)	スマレ類				25
6	草本(オオバコ科)	キタミソウ		23	25	
7	草本(ゴマノハサ科)	ムラサキサギゴケ				3
8	草本(ウリ科)	アレチウリ	122	68		18
9	草本(キク科)	カントウヨメナ		131		
10	草本(キク科)	在来タンポポ			133	72
11	鳥類(カモ科)	カルガモ	209	205	174	88
12	鳥類(カモ科)	オナガガモ			8	
13	鳥類(サギ科)	アマサギ				5
14	鳥類(サギ科)	コサギ	201	112	114	47
15	鳥類(クイナ科)	オオバン		96	170	
16	鳥類(カモメ科)	ユリカモメ		22	28	
17	鳥類(カモメ科)	コアジサシ	19			30
18	鳥類(カワセミ科)	カワセミ	57	44	56	6
19	鳥類(キツツキ科)	コゲラ	27	47	56	8
20	鳥類(モズ科)	モズ	54	170	148	9
21	鳥類(シジュウカラ科)	シジュウカラ	131	151	161	38
22	鳥類(ヒバリ科)	ヒバリ			15	20
23	鳥類(ツバメ科)	ツバメ(巢)	270		27	109
24	鳥類(メジロ科)	メジロ	10	41	169	4
25	鳥類(ヨシキリ科)	オオヨシキリ	28			32
26	鳥類(ヒタキ科)	ツグミ		19	352	
27	昆虫類(シロチョウ科)	モンシロチョウ	318	163		187
28	昆虫類(シロチョウ科)	スジグロシロチョウ	11	6		5
29	昆虫類(アオスジアゲハ科)	アオスジアゲハ	349			30
30	昆虫類(アオスジアゲハ科)	ナガサキアゲハ		2		
31	昆虫類(ツマグロヒョウモン科)	ツマグロヒョウモン		98		
32	昆虫類(ミドリシジミ科)	ミドリシジミ				0
33	昆虫類(クワガタムシ科)	クワガタ	2			0
34	昆虫類(セミ科)	ヒグラシ	8			
35	昆虫類(セミ科)	クマゼミ	36			
36	昆虫類(カマキリ科)	カマキリ類	93	49	132	
37	昆虫類(トンボ科)	シオカラトンボ	315			
38	昆虫類(カトンボ科)	ハグロトンボ	90			5
39	昆虫類(イナゴ科)	イナゴ類	58	76		
40	昆虫類(バッタ科)	ショウリョウバッタ	213	52		
41	昆虫類(バッタ科)	トノサマバッタ	114	79		
42	昆虫類(キリギリス科)	クビキリギリス		23		1
43	は虫類	ハビ類	14	1		2
44	は虫類	カメ類	87	30		
45	両生類(アマガエル科)	トウキョウダルマガエル	17			4
46	両生類(アマガエル科)	ニホンアマガエル	99	39		
47	両生類(ヒキガエル科)	アズマヒキガエル			2	1
48	魚(メダカ科)	メダカ				0
49	貝類	タニシ類				16
50	ほ乳類(イヌ科)	タヌキなど	5	3	3	0
		調査対象種	30種	30種	20種	30種

※着色部分が時期別の調査対象種となります。

2. 緑の保全・創造

2-1 (仮) 平方自然観察公園

市内平方地内にある雑木林（平方 853-1 外、2440 m²）は平成 5 年度より土地所有者の厚意により借用し、自然観察林として活用していましたが、平成 24 年度に市が用地の取得を行い、市内では貴重な、まとまった樹林地として保全しています。定期的な草刈や清掃活動を行い、維持管理に努めています。



(仮) 平方自然観察公園

2-2 こしがや緑のオアシス 2020 プロジェクト

緑のカーテンや生垣・緑の庭、屋敷林等の創造・維持管理をしていく活動の総称を「緑のオアシス」とし、市と学校・地域コミュニティ・事業者等が連携し、身近な取組から環境問題について考え、実践し、取組の輪を地域に広げていくことを目的とした事業です。平成 25 年度からスタートし、令和 2 年までに、「2020のエコな取組」の実施を目標としていました。

令和 2 年度は新型コロナウイルス感染症感染拡大防止の観点から新たな募集は行いませんでした。

【これまでの取り組み】

○緑のカーテンの認定

ゴーヤやアサガオなどのつる性植物を、ネット等に這わせ、カーテンのように窓を覆う取り組みで、大きさが概ね幅 1.8m、高さ 2.0m 以上で、葉がネット等を半分以上覆っていることや、温度抑制・省エネ効果が期待できることなどを満たすもので、特に優れたものを認定しました。

○緑の庭・生垣の認定

生垣や高垣、緑豊かな庭などの創造及び維持管理の取り組みで、外観が美しく、地域住民や通行者の目を楽しませていることや、管理が行き届いており、道路や隣接地にはみ出すなどの支障がないことを満たすもので、特に優れたものを認定しました。

○屋敷林の認定

住宅敷地等においてまとまった樹林地が保全、維持管理されている取り組みで、所有者が将来にわたって耕作し、畔を緑に保つ意思を有していること、草刈等の手入れが定期的になされていることなどを満たすもので、特に優れたものを認定しました。

○緑の畦の認定

耕作をしている田の畔で、草花等の緑が維持管理されている取り組みで、除草剤が使用されていないこと、所有者が将来にわたって耕作し、畔を緑に保つ意思を有していること、草刈等の手入れが定期的になされていることなどを満たすもので、特に優れたものを認定しました。



認定された緑のオアシスの写真

○こしがや緑のオアシスの認定

「こしがや緑のオアシス」に認定された方に認定証と認定プレートをお渡ししました。令和2年度は新型コロナウイルス感染症の影響により新たな募集は行わず、認定もできませんでした。



こしがや緑のオアシス認定プレート



こしがや緑のオアシス認定



認定式の様子

「こしがや緑のオアシス」の認定件数（件）

年度	募集地区	協力校	緑のカーテン	緑の庭・生垣	屋敷林	緑の畦	その他	年度合計
25	大袋・大沢・蒲生	大袋東小・大沢北小・蒲生南小	17	14	1	0	2	34
26	桜井・北越谷 (緑のオアシスサポーター)	平方小・北越谷小	82	13	7	0	2	104
27	荻島 (緑のカーテン講習会)	荻島小	44	8	12	0	1	65
28	新方・川柳 (緑のカーテン講習会)	弥栄小・川柳小	36	12	16	0	0	64
29	越ヶ谷・増林 (緑のカーテン講習会)	城ノ上小・東越谷小	21	5	2	2	2	32
30	出羽・南越谷 (緑のカーテン講習会)	宮本小・南越谷小	13	6	0	2	0	21
R1	大相模 (緑のカーテン講習会)	大相模小	4	3	3	0	1	11
累計	13地区	13校	217	61	41	4	8	331

※令和2年度は、新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から募集を行いませんでした。

○剪定枝持込支援

平成 28 年度に緑のオアシス認定者を対象に実施したアンケート調査で、管理により発生する枝の受入についての要望が多く寄せられました。そのため、平成 29 年度より、東埼玉資源環境組合の協力の下、緑のオアシス認定者に限り剪定枝搬入の重量制限を解除しています。令和 2 年度は、9 件について支援を行いました。

2-3 公共施設の屋上緑化

越谷市の一部の公共施設では屋上緑化を行い、夏の日射の軽減の推進を行っております。

屋上緑化の整備状況

整備年度	施設名	面積 (㎡)	植栽の種類
H13	本庁舎	66	ヘデラ・アジュガ・セダム
H14	消防庁舎	89	マンネングサ (一部改修)
H14	ゆりのき荘	600	マツバギク他
H14	中央中	240	セダム・ラベンダー・シバ他
H15	本庁舎	468	マンネングサ
H18	城ノ上小学校	68.4	パンジー・ベコニア
H19	リサイクルプラザ啓発棟	397	キチジョウソウ・ヒペリカム他
H19	本庁舎 (一部改修)	419	セダム (全体緑化面積 559 ㎡)
H20	大相模地区センター	163	ヘデラ
H21	消防署蒲生分署	36	ヘデラ
H22	障害者就労訓練施設しらこぼと	362	シバ
H23	本庁舎 (一部改修)	272(改修)	ヒメツルソバ (全体面積 559 ㎡)
H24	児童発達支援センター	211	シバ
H26	保健所	237	カメツツジ・サキ・ドウダツツジ・シバ